



申12号「夏季手当に関する緊急申し入れ」をおこなう!

計画を大きく上回る業績を正当に反映し、人財確保と安全・安定輸送を通じたバス事業の経営基盤を確立するための2024年度夏季手当に関する緊急申し入れ

ジェイアールバス関東労働組合は、**申11号「2024年度夏季手当に関する申し入れ」**について、安全・安定輸送を遂行し、当初の計画を大きく上回る3億9300万円の営業利益確保と、4年ぶりの黒字転換を実現した組合員・家族の努力に対する業績還元分に相応しい夏季手当支給に向けた団体交渉を積み重ねてきました。申6号「2024年度賃金引上げに関する申し入れ」において締結した**『会社のさらなる持続的な成長に向け、より筋肉質な収支構造の構築による生産性の向上を進めていくとともに、さらなる人財の確保及び賃金改善や労働環境の整備等、社員・組合員の働きがいの向上と家族の幸福の実現を今後も進めていく』**という労使間の確認メモは、**組合員・家族が未来に希望を持ち、バス業界で減便・廃止が相次ぐ日本全体の社会問題、圧倒的に不足する若年層の乗務員確保に向けたメッセージであり、今夏季手当交渉においても労使の共通認識として中心軸に据えていくものです。**

6月17日、会社は申11号の第3回団体交渉において「社員2.3ヶ月」「契約社員A1.75ヶ月」「契約社員B・臨時雇用員は雇用期間及び稼働実績に基づき個別に定めた額(加算無し)」という回答を示しました。回答を受け、職場からは「業績連動とは思えない。経営幹部の方が社員懇談会でしっかり還元していくと話していたことと違う結果に憤りを感じる」「コロナ禍を乗り越え、黒字転換に向けての施策を懸命に担ってきたからこそ、ガッカリ感、悔しい気持ちでいっぱいです」「満額回答を出すにはいくら黒字計上すればいいのかわからない」「この結果があって年末手当から0.3ヶ月しか上がらない。ここがモチベーションが上がらない所ではないか」「本当に会社は勘違いをしている。この黒字を達成したのは紛れもなく私たちであり、家族の協力があっての成果である」「期待ではなく、人を大切にしない会社というのが透けて見えるがゆえの想定通りという回答だと思う」「60歳以上については制度改正をしていくというが、先の話。今は期末手当でしか働き続けるか退職するかの判断にしかならない」といった悲痛な声が上がっています。経営計画において今後更なる効率化施策が目指され、夏季輸送を目的に輸送力をコロナ前の8割に目標を置くなか、人財確保と人財流出への歯止めとともに、組合員・家族の理解と努力なしでは到底実現不可能であるということは言うまでもありません。

この間、交渉員は団体交渉の在り方について、協約に定める「信義誠実」についても議論を深めてきました。申11号交渉に限らず、会社側委員からは「経営幹部ではないからわからない」といった発言もあり、経営の意志が伝わってこない、実感を伴っていないのが実情です。ジェイアールバス関東労働組合は、計画を大きく上回る黒字転換と、会社の発展基盤を導き出した組合員・家族へ正当な還元を再度求め、下記のとおり緊急申し入れをおこないます。組合員・家族の実直な声を受け止め、真摯かつ誠意ある回答を強く要請します。

1. 2024年度夏季手当については、「**基準内賃金の2.3ヶ月**」に加え、**0.7ヶ月を追加支給**すること。
2. 契約社員Aは**社員に準ずる**こと。
3. 契約社員B・臨時雇用員は、**一律20万円を追加支給**すること。
4. 2024年度年末手当以降の**期末手当支給に対する考え方を明らかに**すること。
5. この緊急申し入れに対する回答については、**2024年6月25日まで**とすること。

黒字転換を図り、約4億円近い黒字を出した事実。それが報われる夏季手当であるべきだ!